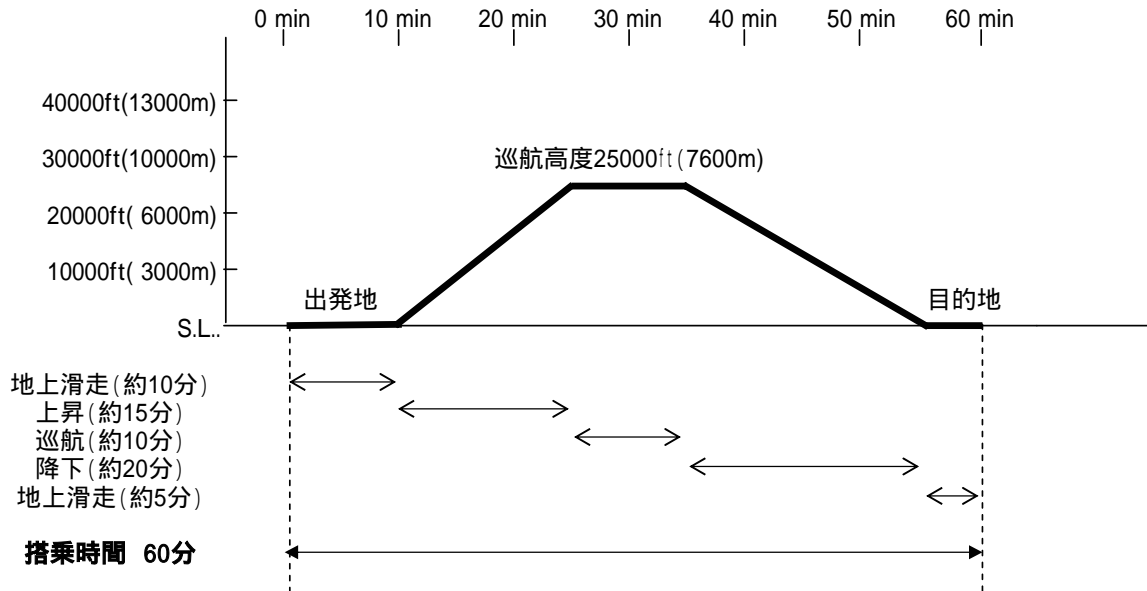


**旅客機等における搭乗時間(乗務時間)と巡航時間の関係について** (日乗連作成)

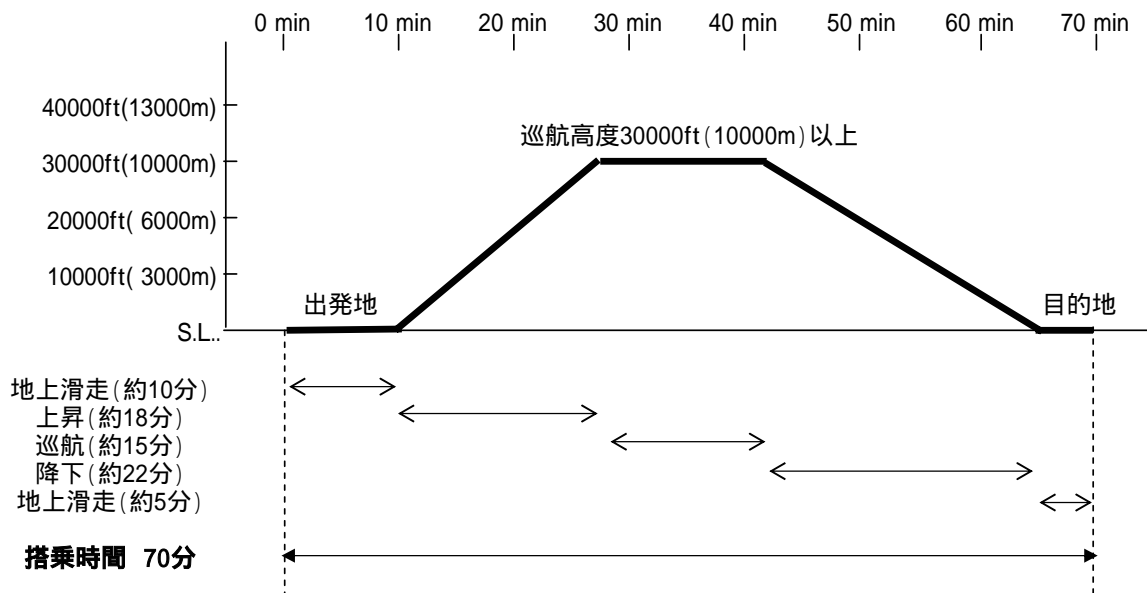
**例 1 : 搭乗時間60分のケース(東京-大阪など)**

このような短時間のフライトでは30000フィート(ft)以上を飛行しても十分な巡航時間が取れない。従って、通常このようなフライトでは30000ft以下を飛行する事が多い。



**例 2 : 搭乗時間70分のケース**

このケースでは30000ft以上に上昇してもある程度の巡航時間が確保されるため、天候等の状況が許せば通常30000ft以上を飛行する。



**例 3 : 搭乗時間が70分を超えるケース**

搭乗時間が70分を超えるフライトでは、上記例2の「巡航時間」の部分(30000ft=10000m以上の部分)のみが増えていく。従って、搭乗時間(下表上段)とその搭乗時間に対する巡航時間(下表下段)の関係はおおよそ以下の様になる。

搭乗時間	80分	90分	100分	110分	120分	...	180分	...	240分	...
巡航時間	25分	35分	45分	55分	65分	...	125分	...	185分	...

## 航空会社の乗務員における国際線乗務の比率等について（日乗連・客乗連作成）

### 運航乗務員（機長、副操縦士、航空機関士）の国内線・国際線の乗務比率および人数の内訳等

	国内線乗務者 (国際線乗務せず)	国際線乗務者		
		国際線乗務が少ない (国際線が1/3以下)	国際線国内線半々 (国際線1/3～2/3)	国際線乗務が多い (国際線が2/3以上)
日本航空インターナショナル	0	170	630	1600
日本航空ジャパン	800	50		
全日空	550	450	100	680
日本トランスオーシャン航空	140			
エアーニッポン	450			
日本エアコミューター	140			
ジャルエクスプレス	100			
その他(注1)	270			
	2450	670	730	2280
合計	2450	3680		
総計(母数) 6130				

(注1) 琉球エアコミューター、中日本エアラインサービス、ジェイエア、スカイネットアジア等々

### 客室乗務員の国内線・国際線の乗務比率および人数の内訳等

	国内線乗務者 (国際線乗務せず)	国際線乗務者		
		国際線乗務が少ない (国際線が1/3以下)	国際線国内線半々 (国際線1/3～2/3)	国際線乗務が多い (国際線が2/3以上)
日本航空インターナショナル	370	360		4800
日本航空ジャパン		1700		
全日空		2000	500	1500
日本トランスオーシャン航空	190			
エアーニッポン	400			
日本エアコミューター	110			
ジャルエクスプレス	130			
日本アジア航空				420
ジャル・ウエイズ				1160
	1200	4060	500	7880
合計(注2)(注3)	1200	12440		
総計(母数) 13640				

(注2) エアドゥー、スカイマーク、ジェイエアー、スカイネットアジア等々の客室乗務員は含まない。  
私達の手元に正確なデータは無いが、それらの総数はおおよそ数百名程度と推測する。

(注3) 外国航空会社の日本人客室乗務員は含まない。  
外国航空会社の日本人客室乗務員については、私達の手元に正確なデータがないが、全体で千名程度と推測される。

以上